

福島森林の現状と課題および研究の進展

Forests of Fukushima -Current status, issues and research progress-

(3) 福島県林業研究センターにおける森林放射能研究について

(3) Research on Forest Radioactivity at the Fukushima Prefectural Forestry Research Center

*小川 秀樹¹¹福島県林業研究センター

福島県林業研究センターでは原発事故以降、放射性セシウム（以下 Cs）による森林の汚染によって生じた林業現場の課題に対応するため、各種の研究を進めてきた。本発表では、これまでの研究の取り組みについて報告を行う。

事故当初、木材生産に利用されるスギについては、高濃度の樹皮の取扱いが課題となった（図－1）。肥料（暫定許容値 400 Bq/kg）への樹皮の利用が進まず、製材所に大量の樹皮が滞留したことから、閉鎖式燃焼炉を利用して樹皮を減量化するシステムの開発を、大学との共同で進めた。また、樹皮濃度が高いスギを伐採前に森林内で把握するために、GM 管式サーベイメータを利用して樹皮 Cs 濃度を簡易的に推定する手法を開発した。

きのこ栽培用の原木として利用されてきたコナラには、50 Bq/kg という厳しい指標値が設けられたことで、福島県内の多くの地域で原木生産が出来なくなった（図－2）。そのため、Cs が付着した樹皮の表面を、研磨剤を吹きかけて剥ぎ取る装置を大学とともに開発し、本装置は実際に現場で利用されることとなった。さらに、コナラによる土壌からの Cs の吸い上げを抑制するために、水稻等で実績のあるカリウム施肥を利用した Cs 吸収抑制手法の検討を進めた。これまで、ポットを利用したコナラ苗木では吸収抑制効果を確認した。現在は、きのこ原木として利用できる大きさのコナラに対して施用して、その効果を検証している。

今後は、コナラや山菜等における効果的な Cs 吸収抑制手法の検討をさらに進めるとともに、空間線量率が高い場所を含む森林の管理や利活用に関する研究を進める予定である。



図－1 事故当初、製材所に滞留した樹皮



図－2 きのこ原木に利用するコナラ林

*Hideki Ogawa¹¹Fukushima Prefectural Forestry Research Center